

安全 〈水道水の安全の確保〉

理想像

いつでも安心して利用できる水道

取り組みの方向性

＜水質管理体制の強化＞

- 良質な水源の確保や保全のため、計画的に水源監視を行います。
- 水源水質の影響を受けにくい適切な浄水処理とモニタリングを継続していきます。
- 水源から蛇口に至るまで高い精度で総合的な水質管理を実施します。

総合評価

S

評価理由

指標は〇〇だが、具体的取組で△△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
水源の水質事故数 (件)						S	適合件数/全件数×100 (水質事故件数は評価に含めない)
水質基準適合率 (%)							
市内給水栓平均残留塩素濃度 (mg/L)						S	市内給水栓残留塩素濃度 0.1~1.0mg/L の範囲適正と評価

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	関係機関と広域的な水源監視・調査を実施します。		○	◎
2	定期水質検査を実施します。		◎	○
3	大阪広域水道企業団との連携等による効果的・効率的な水質管理を実施します。		△	△

今後の方向性

取
方
向
組
み
の

<水道水質のさらなる向上>

- より安全な水道水が提供できるよう、水道施設・管路の更新・再編を行います。
- 水道施設・管路の更新等に併せて、腐食による漏水と長時間滞留を原因とする鉛溶出防止のための鉛製給水管の入れ替えや、貯水槽管理不備による衛生上の問題解消のための直結給水の審査対象の拡大に取り組みます。
- 給水装置工事事業者の資質の維持、向上を図り、給水装置工事を適正に施工できるよう指導します。

総合評価

S

評価理由

指標は〇〇だが、具体的取組で△△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
鉛製給水管率 (%)						S	鉛製給水管の使用件数/枚方市内全域の給水件数×100

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	水道施設整備基本計画(短期整備計画)の見直しを検討します。		○	◎
2	配水管の更新等に合わせて効率的に鉛製給水管を解消します。		◎	○
3	鉛製給水管使用家屋への同管解消の啓発チラシを配布します。		△	△
4	小規模貯水槽の管理者に向けた水質確保のための助言・啓発を実施します。		○	○
5	直結給水審査対象区域内の直結給水の促進に向けた関係各課との協議・調整を実施します。		○	○
6	給水装置工事の適正な施工を図るため、指定店の資質の維持・向上に取り組みます。		○	○

今後の方向性

強靱 〈確実な給水の確保〉

理想像

災害に強い しなやかな水道

取
方
向
組
み
の

<水道施設等の適切な維持管理>

- 水道施設・管路の老朽化等の原因による事故の防止や安全な水の安定供給のため、水道施設等の点検・維持・修繕を実施します。

総合評価

S

評価理由

指標は〇〇だが、具体的取組で△△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
水道管路の漏水調査実施率 (%)						b	年度調査実施個数/年度調査予定個所数 × 100
浄水場・配水場等の設備機器の保守点検 回数率 (%)						a	保守点検の実績回数/目標回数 × 100

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	電気計装設備、ポンプ設備の計画的な更新改良工事と整備をします。		○	◎
2	地下漏水の早期発見により、水道水の安全・安定供給と道路陥没等の二次災害の未然防止に努めます。		◎	○
3	管路用地等の適切な維持管理に向けた定期的なパトロール等を実施します。		△	△
4	上下水道施設管理システム（マッピング）の更新等による水道施設の適正な維持管理を実施します。		○	○

今後の方向性

強靱 〈確実な給水の確保〉

理想像

災害に強い しなやかな水道

取 方 向 組 み の 指 標

<水道施設等の計画的な更新と耐震化>

- 地震被害による水道施設・管路への影響を最小限にとどめるよう、基幹施設である中宮浄水場などの水道施設等の更新・耐震化を進めます。

総合評価

B

評価理由

指標は〇〇だが、具体的取組で△△だったため、評価はBとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
浄水施設の耐震化率 (%)						a	(耐震対策の施された浄水施設能力/全浄水施設能力) × 100
配水池の耐震化率 (%)						a	(耐震対策の施された配水池有効容量/配水池有効容量) × 100
管路の耐震化率 (%)						b	耐震管の延長/管路の総延長 × 100

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	配水施設の更新、改良に合わせた耐震化を実施します。		○	◎
2	管路の更新に合わせた耐震化を実施します。		◎	○

今後の方向性

強靱 〈確実な給水の確保〉

理想像

災害に強い しなやかな水道

取 方 向 性 の 指 標

<災害対策の充実>

- 事故・災害に強い水道事業をめざし、常に突発事故対応や地震・風水害等の災害対策など危機事象に迅速かつ的確に対応できる体制と応急給水拠点等の整備を行います。
- 災害時や緊急時における広域的な連携が必要な場合に備え、近隣市や水道関連事業者と応援協力が可能な給水体制を確立します。

総合評価

B

評価理由

指標は〇〇だが、具体的取組で△△だったため、評価はBとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
応急給水拠点等における一人当たりの貯水量整備率 (%)						b	応急給水拠点等における一人当たりの貯水量/計画水量(90L) (%)

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	危機管理体制を強化します。		○	◎
2	配水池の耐震化に合わせた緊急遮断弁設置や効果的な応急給水拠点の整備をします。		○	○
3	導水管及び送水管のバックアップルート等の整備、送水ルート等の強化をします。		◎	◎
4	災害協定締結団体との合同訓練の実施および災害協定の締結拡充に取り組みます。		◎	◎

今後の方向性

持続 〈供給体制の持続性の確保〉

理想像

いつまでもお客さまとともにある水道

取
方
向
組
み
の

<財政基盤の強化>

- 水道事業を効率的かつ継続的に提供するため、将来予測に基づいた投資計画や財政計画を適切にマネジメントすることで、経営の健全化と経営基盤の強化に取り組みます。
- 将来の水需要の減少や利用実態に応じた料金体系を実現し、健全かつ持続可能な事業運営を行うため、総括原価に基づく料金制度の構築に向けた見直しを定期的を実施します。
- 水道サービスの提供にあたっては、社会環境の変化により多様化するお客さまニーズを的確に把握するとともに、サービス提供コストが水道料金に与える影響を考慮し、判断していきます。

総合評価

S

評価理由

指標は〇〇だが、具体的取組で△
△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
企業債残高対給水収益						S	企業債残高／給水収益

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	企業債発行額を抑制します。		○	◎
2	総括原価の算定に向けた社会経済情勢を踏まえた収支計画の策定準備をします。		◎	○
3	水道料金改正の必要性についての円滑な検討に向けた調定水量や調定金額に関する推移のモニタリングを実施します。		△	△
4	総括原価の算定を基にした水道料金制度の改正の必要性や大口需要者割引制度の在り方の検討をします。		○	×

今後の方向性

持続 〈供給体制の持続性の確保〉

理想像

いつまでもお客さまとともにある水道

取り組みの
方向性

<施設更新の適正化>

●水道施設・管路の資産管理(アセットマネジメント)により、適切な時期に計画的に補修・更新を行うことで水道事故の発生を抑制し、安定給水の信頼性を向上させるとともにダウンサイジングやスペックダウン等の施設総量の最適化による更新需要の削減を行います。

総合評価

S

評価理由

具体的取組で△△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
—							

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	適正な計画に基づきダウンサイジングや経済性を考慮した施設の整備を実施します。		○	◎
2	適正な計画に基づきダウンサイジングを検討し管路の更新を実施します。		◎	○
3	水道施設整備基本計画(中長期整備計画)の見直しを検討します。		○	△

今後の方向性

持続 <供給体制の持続性の確保>

理想像

いつまでもお客さまとともにある水道

取り組みの方向性

<運営基盤の強化>

- 今までの考え方や取り組みにとらわれない業務の再編や執行の効率化等、検証や見直しによる経費の抑制を行い、持続可能な事業運営に取り組みます。
- 人材育成や技術継承はもとより、組織力強化のために業務に精通する専門性の高い職員を適切に配置できる体制を継続します。
- 大阪広域水道企業団を核とした府域一水道などの広域化、広域連携により経営的、技術的に持続可能な運営体制の構築をめざします。
- 公民連携による技術的能力の活用で質の高い公共サービスの調達、事業コストの削減を進めます。

総合評価

S

評価理由

具体的取組で△△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
—							

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	戦略的かつ円滑な事業運営の推進を図るため、組織の再編を行います。		○	◎
2	適正な予算編成と執行管理します。		◎	○
3	水道料金等の債権の徴収強化をします。		○	○
4	遊休施設や既存施設の有効活用を検討します。		△	△
5	効率的な水運用による大阪広域水道企業団からの受水量・受水費を削減します。		○	○
6	人材育成や技術継承を行い、組織力の向上を図ります。		○	◎
7	関係団体等と広域化、広域連携について協議・検討します。		◎	◎
8	DBOによる中宮浄水場更新事業を実施します。		△	○
9	水道管路の更新、耐震化のペース引き上げや事業費の削減に向けた公民連携手法の検討をします。		◎	○
10	水道検針業務、窓口・収納業務等を委託します。		○	○
11	突発漏水事故等が発生することによる水道管漏水等修繕工事委託の活用をします。		○	◎

今後の方向性

--

持続 〈供給体制の持続性の確保〉

理想像

いつまでもお客さまとともにある水道

取
方
向
組
み
の

<積極的な広報活動>

●水道水の安全性や管路等の施設の現状のほか、水道事業の取り組みや経営状況について情報発信を行い、積極的な広報活動に取り組みます。

総合評価

S

評価理由

具体的取組で△△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
—							

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	水質検査計画、水質試験年報を HP に掲載します。		○	◎
2	水道事業全般の情報発信（広報ひらかた、HP、SNS、出前講座、利き水会等）を実施します。		◎	○

今後の方向性

持続 〈供給体制の持続性の確保〉

理想像

いつまでもお客さまとともにある水道

取 方 向 組 み の

〈環境対策と社会目標の実現〉

- 水道は循環資源である水資源を利用していることから地球環境に配慮するとともに、ライフサイクルコストを縮減するため、省エネルギー型設備の導入や設備能力の適正化を図ります。
- 「SDGs」、「Society5.0」、「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」等の社会目標の実現に向けて、水道事業を通じて持続可能な社会をめざします。

総合評価

S

評価理由

指標は〇〇だが、具体的取組で△△だったため、評価はSとしました。

指標

指標名	R3 年度末 (基準)	前々年度 達成値	前年度 達成値	R4 達成値 (R5 に評価)	目標 (R10)	評価	説明
建設副産物リサイクル率 (%)						a	リサイクル材料利用量/材料使用量×100
(浄水) 発生土(砂)の有効利用率 (%)						a	有効利用量/総発生量×100

具体的取組

	取組内容	R4 実績	達成状況	前年度
1	施設の修繕・更新時における環境負荷低減に取り組みます。		○	◎
2	建設副産物等の再生資源として有効利用します。		◎	○
3	排出汚泥を有効利用します。		○	◎
4	関係団体と連携した環境保全要請活動を実施します。		◎	○
5	施設及び公用車のエネルギー削減に取り組み、二酸化炭素排出量の削減に努めます。		○	◎
6	水道ビジョン 2022 に関する各課の計画目標・取り組み内容の実現による SDGs 等を実現します。		○	◎

今後の方向性